

## Ⅱ. 指導の要項

☆指導重点項目を参考にしながら、各レベルや個々に合った指導を適切に行う。

### 1 初心者や初級者の指導

■「審判もプレイヤーやコーチと同じ舞台上でバスケットボールに参加することができる」という喜びを感じさせることが大切である。

#### (1) 精神面の指導

- ① 審判を始めた時の動機（自然発生的、義務的、自分から進んで等）を知り今後の指導の参考にする
- ② 個々の性格を知り指導の仕方を工夫する
  - 1) 生活面の言動を観察する。
  - 2) ゲーム中の審判を見る。
  - 3) ゲーム後の審判の反省会やミーティングの会話を分析する。
  - 4) 審判仲間との交流を観察する。
- ③ 審判することを好きにさせるためのムード作りをする
  - 1) 興味を持たせる。→ 審判のすばらしさを感じさせる。
  - 2) ほめる。→ 本人の悪い面よりも良い面を指摘する。
  - 3) 自信を持たせる。→ 良い面はさらに良くなるように指導する。
- ④ 審判の大切さや楽しさを感じさせる

#### (2) 技術面の指導

- ① 審判として基本的に必要な事項（規則・マニュアル）を理解させ身につけさせる
  - 1) 規則の趣旨、内容を正しく理解させる。
  - 2) マニュアルが正しく実践できるように指導する。
    - ・ 審判が笛を鳴らすときには、大きく鋭く鳴らす習慣をつけさせる。
    - ・ 審判の基本的な動きと両審判の協力についてマニュアルによって理解させ実行させる。
    - ・ テーブル・オフィシャルズ（以下・TO）に正しく伝わるようにシグナルを出す。
- ② 判定のくだけた
  - ・ 確認できたものについてだけ判定する習慣をつけさせる。
  - 「らしい」、「ちがいない」、「形だけ」など確認できないまま判定してはいけないことを指導する。
- ③ 1ゲーム通して走れる体力の養成
  - ・ バスケットボールはスピードを要求される競技である。確認するためには常に良い位置を取り、スペースを見る必要があることを認識させる。
- ④ TOとの連携
  - 1) 番号の伝達などはTOとのコミュニケーションが重要であることを認識させる。
  - 2) ゲーム・クロックを止める合図やタイム・インの合図をきちんとさせる。

## 2 公認 審判員の指導

■審判に対して積極的に取り組む姿勢と同時に、自分の言動（態度や言葉遣い）にも責任を持たせる事も大切である。

### (1) 精神面の指導

①公認審判員としての自覚と責任を持たせ審判の厳しさを認識させる

②審判員としての姿勢を養う

・両チームから信頼されるための努力が大切であることを強調する。

③審判員としての公平な精神と態度を養う

1) 周囲の声に影響されずに公平に審判ができるように指導する。

2) 一方をひいきしている、偏見や先入観を持っているというような疑惑を起こさせるような態度を取ったり、気兼ねしたりして公平性を欠く事のないように指導する。

④1 ゲーム、1 ゲームを大切にさせる

1) 決断力と勇気のある判定をさせる。

2) 技術の向上のため計画を立てて行動させる。

3) 結果を恐れず具体的な課題を与えトライさせる。

⑤集中力の持続

・集中力が途切れたとき、正しい判断ができなくなる場合がある。

正しい判定の積み重ねが信頼を得ることを理解させ、最後まで気を緩めず、失敗を恐れずに集中力を持続するように指導する。

### (2) 技術面の指導

①バスケットボールの技術を理解し追求する姿勢を持たせる（ゲームの流れを大切にする）

1) バスケットボールは、からだの触れ合いをまったくなしにプレイすることはできないことを理解させる。

2) どのような身体接触がファウルであるかを理解させる。（相手のプレイを不当に妨げるような触れ合いがパーソナル・ファウルであり、そのようなパーソナル・ファウルとなる触れ合いについて具体的な例をテーマとして取り上げて学習させる。）

3) 身体接触を含まない判定（ヴァイオリションの判定）ヴァイオリションについて具体的な例をテーマとして取り上げて学習させる。

4) バスケットボール技術の本質を見極めて、ルールを正しく適用する。

5) バスケットボールはスピードを要求される競技であるので、よりよい判定をするために、プレイヤーに走り負けない走力（スピード）を身につけさせる。

②ゲームの掌握

1) ゲームの進行は円滑に無用な時間をかけないで速やかに行う。

2) T O（スコアラー）へのシグナルは正確に明瞭に行う。

3) 常にT Oやベンチを掌握する。

特にゲーム・クロックやショット・クロックに対しては十分に注意を払う。

③ミスと失敗

1) スケールの大きい審判員を育成するために、ミスの原因を分析し適切なアドバイスをする。

2) ミスや失敗を恐れず、思い切って審判できるように周囲からの雑音に対して、自信を失わせないように配慮する。

3) 大きな失敗があった場合でも、組織的なバック・アップとして、指導者自らが審判員と共に責任を負う姿勢が大切であり、その姿勢が信頼関係をより強固なものにする。

④組織的な配慮

1) 審判割り当てを配慮する。

2) ゲームや相手審判に配慮する。

3) 各大会に努力目標を設定し、共通の課題を深く学習させる。

### 3 A級 審判員の指導

■よりレベルの高いゲームを多く見ることによりバスケットボールの理解を深め、上級審判の審判技術（位置取りや判定、ゲーム・マネージメント等）を参考にし、よりよい判定ができるように努力させることが大切である。

#### (1) 指導のポイント

- ①常に目標に対して自問自答をさせ自己開発を促す。
- ②自分の弱点と長所を自覚させる。
- ③自分の審判に自信を持たせる。
- ④ゲーム中にミスや失敗があつて、その後の精神状態が不安定になったことがある場合には適切なアドバイスを与える。また、許されないミスがあることも理解させる。
- ⑤審判の動きや判定は、瞬間を問われるので、身体で覚え、意識しなければいけないポイントを自覚させるように指導する。
- ⑥ゲームの終了後に1ゲーム全体を振り返らせ、その捉え方についてのアドバイスを行う。
- ⑦走り方、笛の鳴らし方、立ち振る舞いなどすべての動作が注目されていることを自覚させる（プレゼンテーション）。

#### (2) 規則の尊重と正しい技術の理解

- ①競技は規則（ルール）によって成り立っているということを理解させ、規則の精神の実行者であるプレイヤーに規則を尊重させるためにも正しい判定ができるように指導する。
- ②プレイヤーが正しくプレイしているのに罰を課してはならないし、悪いプレイに対しては勇気を持って厳しく判定するように指導する。
- ③ゲームの流れを把握させる。（フィール・フォー・ザ・ゲーム）

#### (3) ゲームでのチェックポイント

- ①適切なタイミングで判定をくだしているか。
- ②起こった現象に対して適切な表現力が不足していないか。（アンスポーツマンライク・ファウル、テクニカル・ファウルは的確に取り上げられていたか）
- ③シグナルを正確に行っているか。
- ④プレイヤー管理・ベンチ管理を行いゲーム運営の意識を持っていたか（ゲーム・マネージメント）。
- ⑤姿、服装が好ましく、良い印象を与えていたか（プレゼンテーション）。
- ⑥ゲームの終了場面での判定ミスの有無

#### (4) 割当の配慮

- ・県内やブロック大会で、決勝またはそれに準ずるレベルのゲームを割り当てる。

#### (5) 審判技術向上のためのチェックポイント

- ①ゲーム中（開始前・終了後を含む）の任務を正しく行う事ができるか。
- ②動き、位置取り、視野の分担が適切にできるか。
- ③脚力、瞬発力、持久力、集中力、反応力などがあるか。
- ④ファウルやヴァイオリションの判定が正確にできるか。
- ⑤正しさ、公平さを伴った一貫性ある審判ができるか。

#### (6) 指導力の必要性

- ①ルールやマニュアルに精通し、若き審判員の良い手本となるように努力させると共にリーダーシップを発揮させる。
- ②社会的教養を身につけさせ豊かな人間性を養う。
- ③実社会の生活とバスケットボール（審判）の両立が出来るよう努力させる。
- ④新人発掘の手助けをさせる。

## 4 AA級 審判員の指導

■日本の最高レベルの審判員として、これからの日本が世界で通用するために審判員としてどう関わるべきかを常に考えた審判活動を行う。さらに、日本国内でバスケットボールがよりメジャーになるためには審判員がどうあるべきかを追求していくことが大切である。

### ★指導の要点

両チームの選手の特徴や戦術を理解するとともに、公平感とスムーズなゲーム運営を含む試合に関する全てが「バスケットボールの面白さや試合の醍醐味を味わえるような環境を提供する努め」があることを意識させる。

#### (1) 指導のポイント

- ①常に自己啓発し続けること。
- ②最高レベルの審判員としての自覚と責任を求める。
- ③バスケットボール技術、審判技術の飽くなき追求をする。

#### (2) 規則の尊重と正しい技術の理解

- ①Feel for the game の感覚を磨く。
- ②日本のバスケットボールがより強くなるための方向性を常に研究する。

#### (3) ゲームでのチェックポイント

- ①2～3パーソン・マニュアルへの対応力（メカニクス）が適切であったか。
- ②適切な場面でヴァイオレーションやファウルの判定がなされていたか。
- ③ゲームのレベルにあった判定であったか。
- ④適切なゲーム・マネージメント（管理・運営・コントロール）が行われていたか。
  - ・ゲームの入り方
  - ・各ピリオド及びゲームの終わり方
  - ・TO とのコミュニケーション
  - ・ゲームの理解と的確な判定
  - ・重要な場面での対応
  - ・ベンチ及びプレイヤー管理
  - ・ゲームの終了場面での判定のミスの有無

#### (4) 割当の配慮

トップリーグ、オールジャパン、各全国大会での評価を割り当てに反映する。

#### (5) 審判技術向上のためのチェックポイント

- ①経験を積む中で、ゲーム・コントロールの創意工夫を求める。
- ②主審としての力量を高めるために何が必要かを考えさせる。
- ③体力の維持。

#### (6) 指導力の必要性

A級に準じる。

\*国際審判員を目指して努力させる。

国際ゲームでは判定をはっきりさせるためや、外国の審判とのコミュニケーションに言葉が必要な場面が数多くあり、またゲーム終了時に報告書等、英語力がますます必要となってきている。英語力を身につけさせる指導が必要である。

## 5 伸び悩んでいる審判員の指導

■伸び悩んでいる原因を把握し対応することが大切である。

- (1) ゲームの途中で落ち込み悩んでしまう審判
  - ①対話を持ち、良い点を指摘してほめたり欠点を知らせたりして納得のいくまで話し合う。
  - ②決断力の重要性を理解させ、ミスや失敗を恐れずに取り組ませる。
- (2) 何にでも「ハイ・ハイ」と返事するが実践できない審判
  - ①具体的な課題を与えて自分自身で考えさせる。
  - ②DVDなどを活用し自分の姿を客観的に見せる。
- (3) スタイルばかり気にして中身がない審判
  - ・審判として最も大切なことは正しい判定や信頼感であることを理解させる。
- (4) 惰性になってしまっている審判
  - ①まだやれるという意識を喚起させる。
  - ②割り当てに配慮し、重要なゲームの審判をさせる。
  - ③新進気鋭の若手審判と割り当て刺激を与える。
  - ④他県へ遠征させる。
- (5) 職場や家庭の都合で審判ができにくい審判
  - ①職場や家庭での個人的な事情を理解した上で本人の努力を促す。
  - ②職場の仲間の理解を得る努力をさせる。
- (6) 規則に詳しくてもコート上で規則通りにできない審判
  - ①バスケットボール技術の理解を深めるための具体例を示してあげる。
  - ②目的を持ってゲーム（審判）に取り組ませる。
- (7) ファウルを取り上げすぎや見逃しの多い審判
  - ①パーソナル・コンタクトの基本原則を理解させる。
    - 1) 全てのプレイヤーは、規則に従って相手の占めていない位置で、その位置を占めることが相手とのからだの触れあいの原因にならない限り、コート上の任意の位置を次々と占める権利がある。
    - 2) からだの触れ合いによるファウルは、その触れ合いの責任がどちらにあるのかバスケットボールの技術を理解させる。
    - 3) ボールを持ったプレイヤーと持たないプレイヤーの触れ合いの違いを理解させる。
    - 4) アドバンテージ・ディアドバンテージの考え方を理解させる。
  - ②ノーマル・バスケットボール・プレイを理解させる。
- (8) ゲーム毎に判定基準が変わる審判
  - ①バスケットボールの技術を追求する姿勢を持たせる。

正しいプレイと不当なプレイ、激しいプレイと乱暴・粗暴なプレイ、偶然の触れ合いと意図的な触れ合い等を見分けられるように指導する。
  - ②他の審判の動き方、位置の取り方、判定のタイミングなどを見させて自己反省の材料にさせる。
- (9) いつも周囲の目や声を気にして自分が確立できない審判
  - ①コートに立つ審判がゲームを運営し、規則の適用をすることを確認させる。
  - ②自分の判定基準を確立させる。

## 6 ゲーム終了後の審判指導

■ゲームの一部の現象のみを捉えるのではなく、ゲーム全体を多面的に捉える。

本人が必ず解決策を見いだせるように指導する。

以下の事項について説明し、良い判定については必ず話題として取り上げ、必要があれば次の課題を与える。

### (1) 審判技術

①ゲーム中（開始前も含む）のチェックポイント

- 1) T Oとの確認事項（器具・用具の操作）を確認したか。
- 2) 基本的なシグナルや、判定後の処置は正しかったか。
- 3) 3秒、5秒、8秒の数え方は正確だったか。
- 4) ゲームの再開時に無用なトラブルを避けるための配慮はあったか。
- 5) T Oとの連絡や掌握がしっかりとできたか。（コミュニケーション）
- 6) ベンチの管理やプレイヤー管理がしっかりと出来たか。（コントロール・マネージメント）
- 7) ゲームの終盤は、正しくミスのない判定であったか。

②動き・位置取り・視野の分担のチェックポイント

- 1) マニュアルに則った動きであったか。
  - ・ボクシング・イン
  - ・ペネトレイト
  - ・スペース・ウォッチング
  - ・オールウェーズ・ムーヴィング
- 2) 相手審判と視野の分担やアイ・コンタクトが取れていたか。
- 3) プレイに対する予測と備えがあったか。
- 4) 場面・状況に応じた位置取りができたか。
- 5) 良い位置・良い角度を常に求めた動きであったか。

### (2) 基本的能力

①脚力、瞬発力、持久力、集中力はどうかであったか。

②瞬間を捉えた鋭い笛等、反応力はどうかであったか。

### (3) 判定

①取り上げるべきものを見逃すことはなかったか。

②取り上げてはいけないものを取り上げることはなかったか。

③ヴァイオレイションの判定のチェックポイント。

- 1) 正確な判断で成立の瞬間を捉えていたか。
- 2) トラヴェリングの判定では、ボールをキャッチした時の状態およびピヴォット・フットがしっかりと確認できていたか。
- 3) アウト・オブ・バウンズの判定では、ラインの責任分担や相手審判とのアイ・コンタクトがしっかりとできていたか。
- 4) 「ボールをバック・コートに返すヴァイオレイション」の判定では、成立をしっかりと確認したか。
- 5) イリーガル・ドリブルでは、ボールの状態を確認し、瞬時に判定できたか。
- 6) ゴール・テンディング、インタフェアでは予測ができていたか。
- 7) 3秒・5秒・8秒・24秒では、ルールに則って正しく判定できたか。

④ファウルの判定のチェックポイント

- 1) 触れ合いの事実を確認したか。
- 2) 責任の所在はどちらにあるのかを正しく判定できたか。
- 3) 触れ合いが相手のプレイを妨げた場合にだけファウルを宣していたか。
- 4) ショットの動作（アクト・オブ・シューティング）であるかどうかの判断は正しかったか。
- 5) ポスト・プレイやスクリーン・プレイに対しての技術的な理解は十分できていたか。



- 6) 不当に手や腕を使ったプレイに対しての判断は正しかったか。
- 7) 真上にジャンプして起きた触れ合いに対しての判断は正しかったか。
- 8) アンスポーツマンライク・ファウル、テクニカル・ファウル等が適切に判定できていたか。
- 9) ゲームを通して正しさを伴った判定が一貫していたか。前半・後半で判定の基準が違っていなかったか。

#### <参 考>

- ・ファウルの責任がどちらにあるのかを瞬時に正確に判断することは難しいことの一つであるが「触れ合いは仕かけた側に責任がある」とか「ボールを保持しているからといって何をしても良いわけではない」というような基本的な考え方を理解しているかどうか大切である。まして確認できないものをコールしてしまい「罪なき者を罰する」事にならないように十分な配慮が必要である。
- ・各ピリオドの終わり方はチームが最も重視している場合が多い。特にゲームの終盤、残り2分においてはゲームの勝敗を左右する場合があるので、その対応が極めて大切であることを理解させる。